

まんが王国・土佐推進協議会 平成 30 年度第 1 回総会（概要）

日 時：平成 30 年 9 月 20 日（木）13:30～15:00

場 所：高知城ホール

出席者：まんが王国・土佐推進協議会委員 17 名（うち代理出席 1 名）

監事 2 名

報告者 1 名

（1）議事

事務局から次の議案について説明があり、承認された。

第 1 号議案 平成 29 年度まんが王国・土佐推進協議会事業報告及び収支決算

（2）報告事項

事務局から次の報告事項について説明があり、意見交換が行われた。

第 1 号報告 平成 30 年度まんが王国・土佐推進協議会収支予算

第 2 号報告 平成 30 年度「まんが王国・土佐」ブランド化の推進について

- ・第 27 回まんが甲子園（平成 30 年度全国高等学校漫画選手権大会）の実施について
- ・ニコニコ超会議 2018 への出展について
- ・ワンダーフェスティバルへの出展について
- ・まんが王国・土佐ポータルサイトの運用について
- ・まんが教室の実施状況について
- ・海外との交流について

第 3 号報告 まんが王国・土佐情報発信拠点整備基本構想（案）について

- ・検討委員会からの報告(検討委員会委員長)

（3）協議事項

次の協議事項について、事務局からの説明、事業推進部会部会長からの提案の後、意見交換が行われた。

第 1 号協議 全国漫画家大会議 in まんが王国・土佐および世界まんがセンバツについて

第 2 号協議 平成 31 年度「まんが王国・土佐」ブランド化の推進について

- ・事業推進部会からの提案(事業推進部会長)

（4）閉会

次回総会は、来年 2 月中旬を予定

<意見交換概要>

第2号報告 平成30年度「まんが王国・土佐」ブランド化の推進について

まんが甲子園

【A 委員】

- まんががまだサブカルチャー以上の評価をされていない時期にまんが甲子園が始まった。
- 25回を過ぎた辺りから、作品のレベルが飛躍的に上がり、一般市民の方々の理解も同時に深まっている。
- 漫画協会レベルで見ても、日本のまんが文化全体に与えている影響というのが非常に大きい。
- 出場校の先生や生徒からも、選考のポイントやなぜ自分たちの作品が選ばれなかったのか等について聞かれることが多くなり、意識が変わってきたと感じる。
- 海外については、前から交流があったが、(まんが甲子園に参加することが)実現するとは思っていなかった。海外校の作品はレベルも高く審査も悩むほど。

【B 委員】

- 提案させていただいた中継が実現出来て良かった。
- まだまだやれることはたくさんあり、もっと面白くすることができる。

【C 委員】

- 選手達が楽しそうに、真剣にやっているのので、応援したいと改めて思った。高知県はまんがで胸を張れる県だと思う。
- 一方で、今年試みた実況中継も、事前にどれだけの人が知っていたのか、予選敗退した生徒も見なかったのでは。
- 事前の情報発信をもっと積極的にしていく方が良い。

第3号報告 まんが王国・土佐情報発信拠点整備基本構想(案)について

【C 委員】

- 拠点を「まんがを見れる」と観光客にPRして欲しい。
- オーテピア、高知城歴史博物館、情報発信拠点とつなげてPRすると良い。

【D 委員】

- 「まんが文化」そのものを旅行商品として組み込めるのでは無いか。
- まんが教室など、実際の漫画家と会えるのは魅力的。
- もう少し情報発信ができればいいと思うので協力していきたい。

【E 委員】

- 今までまんが甲子園や漫画家大会議を開催してきたが、「まんが王国・土佐」をイベントをやっている時期だけしかPRできていなかったが、常時情報発信ができる拠点ができるというのは非常にいいことだと思う。
- イベントの期間以外も来て見ることができる場所ができ、かるぽーと、高知城歴史博物館、オーテピアと動線ができることで回遊性ができると考えている。
- 県内全域とはいかなくても、高知市以外にも広げ、まんがファンが来るような場所があれば、商店街の中の空き店舗でもよいが、その地域を面で結びつけるといった考えでやっていってはどうか。

【F 委員】

- 市町村振興協会として、まんが甲子園には一定の負担をしているところ。34市町村それぞれの歴史がある中でまんがというものが市民権を得るのは時間がかかっていた。
- 一方で、高知の歴代の漫画家の先生方が残した素晴らしい実績は大きく、そういった面では34市町村が等しく（拠点ができることを）期待をしているところ。
- 各市町村の立ち位置は違うかもしれないが、県を挙げてやる事業の意義はあるのではないかと思うし、それによってそれぞれの市町村の歴史や取組を見せることができたらと思っている。

【尾崎会長】

- 確かに、各地域にまんがに関連するそれぞれの所がある。例えば、（中土佐町は）漫画「土佐の一本釣り」で有名なところである。

【F 委員】

- （中土佐町には）まんが神社もある。

【尾崎会長】

- さらに今度南国市に、産業振興計画の地域アクションプランで取り上げているが、コンテンツ関係の拠点を作り南国市の商店街と連携して空き店舗を利用し、新しい取組をやっていく。
- アンパンマンミュージアムは言うに及ばずというところ。
- 県内各地域にそういう取組があるので、情報発信拠点とそれぞれの所が繋がっていけばいい。
- 地域のものを紹介するコーナーを設けると言うことだけで無く、SNSを活用して海外とインタラクティブにつなげる事ができる。

○色々なコミュニティの場として活用出来たらいい。

【F 委員】

○観光振興に資することになると、外観を変えるということにはできないが、外構の部分でイメージチェンジし、県内市町村を含めたPRを行うと良い。

【G 委員】

- クラウドファンディングを使って外観のイメージチェンジを図る事も考えられる。
- 資金を集めることが目的では無く、一般人に参加してもらおう場を作る。資金を出してくれた人は絶対来てくれる。(ある取組ではクラウドファンディングに参加してくれた人の75%の人が現地を訪れた)
- 公的機関が公的なものを作ると一般に浸透するには時間がかかる。公的機関が一般人の参加できる仕組みを作ると上手くいくケースがある。

【吉村部会長】

- オーテピアから人が流れるような工夫がいる。
- これまでは「建てるため」の検討委員会であったが、これからは「建てた後の運用」を検討する委員会が作られるようにして欲しい。

【尾崎会長】

- 中身の練り込みは大事なので、色々な人の知恵を借りながらコンセプトをしっかりとすべきである。

【A 委員】

- 全国各地で「まんが王国」と名乗り始めているが、熱っぽさで言えば高知がダントツである。
- トータルで土佐の気質はまんがで県を盛り上げていくことにつながっている。
- 絵金がまんがかと言われるとはっきりとは言えないが、絵金祭りなど歴史を遡ってやっている所は他にない。

第1号協議 全国漫画家大会議 in まんが王国・土佐および世界まんがセンバツについて

【尾崎会長】

- 世界まんがセンバツは面白くて素晴らしい。まずは1回目だが、世界でも権威ある素晴らしいものにするためにはどうすれば良いか。

【B 委員】

- 可能性を秘めたコンテンツになると思う。どう仕掛けたら盛り上げられるのか考えているところではあるが、ぜひ何かやっていきたい。

【尾崎会長】

- あまり「高知」を前面にだすと、一地方がやっているだけというイメージになる。日本のまんが界としての面を出していきたい。
- 日本のまんが界の大会として有名になり、その大会はどこでやっているのかとなった時に「高知」が出てくるイメージ。

【H 報告者】

- 本気でプロが参加してきたら面白い事になると思う。
- 数よりも「すごいのが来た」という方が良い。

【吉村部会長】

- 一枚まんがは世界中にある。審査員も漫画家だけでなく、芸術家、映画監督、声優など、様々な分野の方をそろえると面白い。

【A 委員】

- 今までに無い審査方法が確立出来るとすごいことになる。
- 審査方法（基準）が一番難しい。

【B 委員】

- 今の賞金金額だと漫画家は描かない。
- 他のまんがコンテストだともっと賞金を出しているのが現状。（他のコンテストは30～1,000万円）

【A 委員】

- 新聞社が行っていたまんがコンテストが廃止になったのも、賞金を出し続けることが難しくなったことが一因でもある。

【尾崎会長】

- スポンサーの募集も考えなくてはいけないか。

【C 委員】

- 国内区間の航空費用くらいは当社で出すことはできる。

【尾崎会長】

- 賞金の代わりに何か雑誌の表紙や裏表紙にする等は考えられないか。
- 第1回には間に合わないが、その辺りも含めて来年度の開催に向けて検討する。

【F 委員】

- 中土佐で鯉タタキ食べ放題というのはどうか。

【I 委員】

- 2020年に第44回全国高等学校総合文化祭として高知県で開催する。全国から20,000人訪れる。ここには“まんが甲子園”が協賛部門として入ることとなる。

【J 委員】

- 高校生部門では優勝者に次回の甲子園で審査員として審査をする、フリー部門は漫画家大会議に出演出来るといった権利を与えるのはどうだろうか。お金もかからないし、今からでもできる。

【G 委員】

- この取組の戦略としては、2つの方向性がある。「一般ユーザーへのプロモーション的に広げていくもの」と「公的に地道に積み重ねて箔をつけるもの」の2つ。
- アカデミー賞も現在では非常にメジャーな権威ある賞であるが、最初は後者であった。
- 一般ユーザーへのプロモーションであれば、一般ユーザーの興味に沿うものを提供し、投票を行わせたりと考えられるが、現在はその仕組みが無い。

【尾崎会長】

- 短期間で箔のある賞にすることはできないか。

【G 委員】

- フリー部門をユーザーが参加して投票するユーザー投票部門に、高校生部門を才能発掘部門として組み合わせることが考えられる。

【尾崎会長】

本日はありがとうございました。たくさん提案をいただいたので、部会や事務局でご意見をもとに詰めさせていただき、次回総会で議論いただきたい。